



深田目録
上



まりの亮よりつりののこもろなひらひ
わやまらゆらゆらしく先達のま
さいそ母よりなれは後生のまじがうらん
ぢきさへんげんやつわよ愚眼を
とふあを母まにのどてれる餘
情と名づけるまらまら
字はのち納を物語と今いひて
前守為時とまらまら母まら
やまらゆらゆらしくまらまら
やまらゆらゆらしくまらまら
まらまらゆらゆらしくまらまら
源氏つりつりまらまらまら
つりつりまらまらまら
つりつりまらまらまら

一頃徳院御記養久二年一河物語雖多或有
或託たせ更之伊勢物語詞括くわ更之まらけり
む上手めと詞殊勝之大和やまと喜下よろこ者
其外ほか何物語盡も不見み其途
故ゆゑ源氏物語不可説物之更非俊
之ゆゑ為ゆゑ某式あつかひ書之始一條院有御
流なが不可説物之式あつかひ日本記よめと
まらまらまらまらとまら在あ作な于ま取ま左ま内侍うち始は論り言ふ号す日本記よめ流なが為ゆゑ誠
諸道諸あ皆ま縮まは一篇不可説未曾
有下説源氏哥うた方かた之の校ま衣え哥うたと
けりまらまらと云いは各心あ浮う浅あ猿ま
更ま之の更ま非あ同日論議あ校衣哥うたし
不あ愚あいまらま源氏哥うたよ不可友更
雲あ流ながくま凡あ哥うた道みちい知し与よ不知し水火者あ
源氏よ才あ一あ詞あつま非あ人あ方かた処あ為あ不

可説更之才二所勢然^然是又何人及
之才三作根^根之^之以^以肅^肅之^之盡^盡優^優養^養也
之^之更^更も^もあ^あら^らべ^べ。但^但未^未見^見奇^奇又^又奇
説^説。但^但是^是の^の我^我朝^朝宗^宗上^上之^之詞^詞更^更非^非之^之
之^之如^如為^為物^物之^之未^未知^知子^子細^細之^之奉^奉不^不可^可并^并也
此^此凡^凡古^古今^今。後^後撰^撰為^為太^太息^息特^特則^則一^一条
院^院以^以と^とり^り。非^非普^普通^通物^物歟
一^一河^河海^海席^席云^云光^光源^源氏^氏。寛^寛弘^弘院^院の^のと^とり^りに
出^出て^て。康^康和^和院^院の^のと^とり^りより^{より}ま^まり^りの
つ^つ略^略す^す

同抄よ去^去び^びの^のう^うら^らの^のお^おり^り。後^後に
り^りの^の西^西宮^宮。元^元大^大隆^隆安^安和^和二^二年^年。
右^右寧^寧持^持帥^帥よ^よた^た遷^遷と^とれ^れ信^信一^一ふ
友^友或^或多^多。あ^あま^まあ^あく^くも^もり^りる^る事^事を^をり^りて^てお
り^りい^いあ^あけ^けさ^さけ^けら^らん^ん大^大神^神院^院。撰^撰子^子内^内親^親王^王
村^村上^上女^女十^十宮^宮
し^しり^り上^上東^東の^の院^院へ^へづ^づら^らる^る事^事あり^り。

や^やと^とい^いふ^ふ。さ^さら^らね^ねば^ばさ^さほ^ほけ^けら^らん^んら
か^か作^作ら^らり^り根^根の^の古^古抄^抄に^にあ^あれ^れる^る事^事も^も
わ^わら^らじ^じく^くつ^つら^らり^りの^の事^事を^をま^ます^すら^らん^んべ
さ^さら^ら。或^或は^はあ^あの^のと^とれ^れさ^され^れる^る事^事は
寺^寺よ^よ通^通お^おす^す。この^の事^事は^はい^いの^のり^りに
あり^り。一^一も^も八^八十^十の^の事^事の^のな^な。阿^阿彌^彌の^の事^事
つ^つら^ら心^心の^の事^事を^をり^りの^の事^事は^はあ^あら^らん^んべ
風^風情^情を^をい^いふ^ふ。い^いふ^ふ事^事を^をい^いふ^ふ事^事は^はあ^あら^らん^んべ
さ^さら^ら。い^いふ^ふ事^事は^はあ^あら^らん^んべ。い^いふ^ふ事^事は^はあ^あら^らん^んべ
あり^りけ^けり^りや^やお^おほ^ほい^いら^らん^んべ。い^いふ^ふ事^事は^はあ^あら^らん^んべ
後^後よ^よ罪^罪障^障懺^懺悔^悔の^の事^事に^に般^般ろ^ろ二^二ア^ア云^云
百^百善^善を^をま^ます^すら^らん^んべ。い^いふ^ふ事^事は^はあ^あら^らん^んべ
い^いふ^ふ事^事は^はあ^あら^らん^んべ。い^いふ^ふ事^事は^はあ^あら^らん^んべ。光^光源^源氏^氏を

たちほよまごころ世のふゆやうが
よまごころ周々且白雲易のゆめ
つぐく在ゆき菅葉相のゆめ
よまごころ一づらふづらそのら
よまごころ五十七はよまごころ
張大ゆき行成よまごころ
よまごころ一はゆきゆきゆき
寺入道周白奥書とゆきゆきゆき
流せゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
交仁義の道好色の無善指の縁
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
其ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
アの中よ世上のまゆきゆきゆき
でたらあよゆきゆきゆきゆき

世或アや号とゆきゆき一説云
乃名世とあゆきゆきゆきゆき
ゆきゆき世のまゆきゆきゆき
或説云一条院のゆきゆきゆき
門院へまゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆき

一物語の取代醍醐朱雀村上三代
すう欽桐葉門の延表朱雀院天慶
冷泉院天曆光源氏西宮丸大民必
けおあゆきゆき
一照宣の母平法皇乃皇女延表の
帝のゆきゆきゆきゆきゆき
一ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
云ゆきゆきゆきゆきゆきゆき

い物終光源氏としひくすううされん
西宮方大臣は准ずるま一世の源氏と
連の法は相同一げりとも皮公好色の
先達といひてまこいけうやをの
物終は孫は世道とむりう欽答曰
つり物終のあしひ大綱に其人のあし
りげあまごとし行治よとまらふあ
らよしういかれを換とらうしは源
朝の書籍春秋史記まらふ実縁は
ゆ有実同欽

一桐葉帝冷泉院を延去天曆よまどく
まらう或唐の玄宗のあまらぬ
まらう或秦始皇のうけり例を
らうり又天慶の門に相續の皇胤お
りしゆらわらひあれがらうま
院の所ま今上冷泉院の四後か

或説目は条有
作者意趣欽云

光源氏とも安和の
よはまらう好色のうらむれ先
かりあまら中おの風とまらひ
五條二条の后を藤雲の女院藤月
夜の尚侍うらまら或いうこの
のそまらをまらり又右上天皇の
号も源家よいたまの田躰本
朝よの皇子王子木先蹤を換とら
欽是作物終の習とらめらつまの
い時ひらうて分明く書ゆらまら
け殿へまま下よの延去のい時とま
心とらかりげ外或ま桓武一条院
と桐葉の門よ准と又内大臣停周
まを光源氏よ擬とらまら一巻も
ま欽此旨以謬説之若桓武といま其
以後の帝王陽成宇多延去のい名

物語より二条院より延喜の末
五代のよりその其の上はまのきり
はは上平にすめり千枝つねのり
有りあ人朱雀村との所せし書士
此はとるると二条院までな生と
又絵合の末も朱雀院を当代
由載之を無異論身

一は物語本一やうとて執行成
御自筆の本も悉今世は傳り
び源光行八本として校合取捨
志て家本少くとり取謂二条仲修房
松冷泉中納言胡隆本堀河元大後
房本 号黄表紙 后一信藤子本 号京極北政
法性寺園白本 号尚侍殿本 五条三位
後成本京極中納言定家本 号青表紙 下等
各雖體本皆有異同に勘合古本

且可加り見者耶善者後之古今之
羨也

一黄表紙 後成 号定家 二条家

用之奥入汁のてしむ己達処為之
之為相母 阿佛 為氏继母之奥入を
ゆて流しとるり或説奥入は伊行々
作こそれよ定家註と加りやとる

一河内本河内守大監物源光行八本と以
て校合取捨して家の本やとるあり

一寛平 母常陸外撰津守藤原為信女 上東門院女房或産鳥司殿女房

内舎人 勸修寺家担 利基 号中納言 堤中納言 刑部大捕 兼捕 惟平

良門 号正下 為時 号兼守 寛平

高藤 兼茂 女子 勸修寺内舎人 号子一 け式アハ後また浦門控依宣者よ嫁

て、方貳三修舟屋作者を修舟の旧法
正親町以南今東小院の
院、上東門院之修之文式ア墓所
在西宮林院白毫院南小野皇墓
西なり

一源氏とていひをいふ盛者
少妻の心を守りて見悪さひて
ハ好色のいふいふばいひかき
あふ源氏とていふ可見
一凡五十二の巻よのあり一の
詞をとり二の舞よりなり二の句や
哥の二よりなり二の句も
とさのていふなり天台の教い
て諦法門の二の有門二の空門二
よの亦有亦空門二の非有非空門二
也二一切の二教ハ世ハ諦ハ出ハびハそハい

よりて故マ諦外別立法性も是なり
眞實の道理ハ言教のゆゑにあり
りれあり

二巻 桐壺 句を名ととり

桐壺ハ淋景舎也け所曹司より
よりて光源氏の母降息所を桐壺
更衣といふ仍巻若しより一巻壺茶
裁詞ハは茶の巻茶裁の壺也ハ

二巻 帚木 句を名ととり

けいこハばいハをハまハごハそのハのハ道ハあり
やハあハくハゆハいハぬハあり
并ハ一ハ空ハ殿ハ繼ハのハあハびハ舞ハをハ名ハとハり
中ハのハいハはハくハてハびハるハ本ハのハ中ハはハれハん
がハらハあハらハうハさハれ

巻の并のいふうつわの物語才ハ
の并春目祭又才五吹上巻事

し女も糸とびぬきしは袖の

世のなまじりしは

十七玉鬘カサカサ 并ナとくまのり

あつらふれそれあつらふれ

なすすらすとあつらふれ

并ナ一初音 縦タテのあつらふれ

白月とねはつらわつらふれ

あつらふれ

并ナ二胡蝶 縦タテのあつらふれ

あつらふれ

あつらふれ

并ナ三堂 縦タテのあつらふれ

あつらふれ

あつらふれ

并ナ四常友 縦タテのあつらふれ

あつらふれ

このあつらふれ

并ナ五無次 縦タテのあつらふれ

あつらふれ

あつらふれ

并ナ六のり 縦タテのあつらふれ

あつらふれ

并ナ七御幸 縦タテのあつらふれ

あつらふれ

あつらふれ

并ナ八蘭 縦タテのあつらふれ

あつらふれ

あつらふれ

并ナ九栴柱 縦タテのあつらふれ

あつらふれ

あつらふれ

あつらふれ

大友氏長屋王賜死之後作哥
太皇のこころかこゝおぼあつたの

時よあつたねどまがくれまひ

世外不可勝計常木の巻よふ巻後

世後そむく後まゝ二三年つりさ

がの浪よ浪若き後入ふ由りた

まどい巻の中ふ二三年浪若志

ゆしてそのら崩ゆ一後度そ

い巻よ初めふまゝまゝと押巻

のふだうりまゝと初とぬい天

然のて敷の法門と例よりたれ

る成物とまゝとゆらゆら成芸

鳥よこりくまゝ一後い巻より

八九年の度りわらまひ

廿七白宮初とまゝとり或い白宮

廿一名普照中将也 例は廿六白宮

是中おとまゝといひつけてまひ

并一紅粉紙の并し詞とまゝとせりま

二彩まゝと紅粉紙とまゝとせり

并二御河 接のこゝとまゝと綴

哥と初ら成るまゝと

竹河のこゝとら出り一廻りま

心のそこいまりま

廿八橋紙十指 哥をまゝと

と一姫の心をまゝとたうまは

ほの巻に袖がぬまわ

廿九椎本 哥とまゝと

まゝとまゝとけとおと一推が本

三十角総 哥と初ら成るまゝと

初めまゝとまゝとせりま

りおまゝとまゝとせりま

世一早蕨

うしろの初まきえい

このまの作あつてまんまんかんのめい
まにほりうの筆のさつりい

世二寄本

舟とらんまもり或各白鳥

やうり本とさびしう本のりりの旅

ねのまーさびーさびー

世三東屋

舟とらんまもり

とーまもりまもりまもりまもりまもりの東屋の

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

世四浮舟

舟とらんまもり

たらまのふ湯へともあつてを

あつてまもりまもりまもりまもりまもり

世五蜻蛉

舟とらんまもり

ありまもりまもりまもりまもりまもり又

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

世六

舟とらんまもり

てあつてまもりまもりまもりまもりまもり

世七

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

まもりまもりまもりまもりまもりまもり

一 おそろしきあつ 奉將之

一 おそろしきあつ 長き大

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 おそろしきあつ 御之

一 ^{早速} 早速とてあつてゆく
一 ^{掩韻} 掩韻古詩の字とて
一 ^{未字} 未字何の文字
一 ^{勝負} 推して勝負とて

一 院の ^{何処} 何処とも見えず
一 ^{紫花物語} 紫花物語よ ^{若陰} 若陰と云ふは ^廟 廟の
一 ^{天曆陵} 変り ^{松崎} 松崎の ^{天曆陵} 天曆陵を
一 ^{書あり} といふとて書あり

一 ^又 又 ^{まの} まの ^東 東 ^{まの} まの
一 ^{青幣} 青幣 ^{白幣} 白幣 ^{日本記} 日本記 ^{又五色幣} 又五色幣有
一 ^{雑家} 雑家 ^{三四月} 三四月 ^{落流} 落流 ^真 真

一 ^行 行 ^濁 濁 ^{石山} 石山 ^{聖武} 聖武 ^天 天
一 ^皇 皇 ^金 金 ^鷲 鷲 ^仙 仙 ^人 人 ^建 建 ^立 立
一 ^い い ^ろ ろ ^の の ^あ あ ^の の ^つ つ ^こ こ ^く く ^き き ^を を ^ぬ ぬ ^い い

あつたりとめ ^狩 狩 ^禊 禊 ^の の ^い い ^物 物 ^を を ^も も
くろり ^深 深 ^も も ^ま ま ^ま ま

一 ^張 張 ^塞 塞 ^滄 滄 ^武 武 ^帝 帝 ^使 使 ^と と ^て て
一 ^楫 楫 ^よ よ ^系 系 ^て て ^天 天 ^滄 滄 ^の の ^派 派 ^と と ^究 究 ^と と ^て て
一 ^孟 孟 ^律 律 ^よ よ ^の の ^り り ^て て ^午 午 ^女 女 ^よ よ ^を を ^そ そ ^降 降

一 ^世 世 ^の の ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世
一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世
一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世
一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世

一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世
一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世
一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世
一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世

一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世
一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世
一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世
一 ^源 源 ^氏 氏 ^と と ^ゆ ゆ ^て て ^後 後 ^の の ^世 世

一いそくくひそがしこの心
一いせら 諸杉格奥列之文をか

一冊 楨柱 楸木 三徳より此の文と用

一あは加路の文と用

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一冊 家づきのきき 女この家司を

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

一いりくきく敬心

といふ入ぬのちさりとてつり

一 六条院つりともて 何条院と横守

ふく 一ろちり 論

一 六条院より 雲鳥妻 駒云別業也。

陽成院志より おり 陽成院の

院と号し 陽成院の

の門 朱雀院の門

も物 大長雅信の

大長雅信の 長徳

の堂 白買得 結多あり

二 六条院より 白買得 結多あり

二 六条院より 白買得 結多あり

曹子あり

一 六条院の

七條も六条院の中よめ

一 一ろちり 嗚呼

ろちりあり

○は

一 一ろちり 無半非常

このころ心ありて後

一 一ろちり 一坊も

職員今 御門より

鬼鬼

日本記

三歳まで 袴着の例

四丁七月廿三日 東宮の時

女人のも同

無墓り

一 一ろちり 将寒肌

一 一ろちり 麴の

くりわらうとす都てんをせうと

一 ともかく兄方へ同腹

一 母もてゆへあつたれね風のきり

大井のあら兼明親王ともなり

皮は女は准じて心く

一 所くものりも素物も世をさるるま

とまらぬ又くくくくくくく

一 ともかくて 教書をもよひしり

とまらぬくくくくくくく

わらひあがり 一 ともかくてん

とりともくくくくくくく

とのやく まじ ともかくも 志馬

山海終云 東海有黒齒國其俗婦

人齒迷思黒漆 今案 日本 東海

中の國あり皮倍よるくあめ首い

くくくくくくくくくくく

せられいた代の知をぞのあう

よて世の娘も十歳よりあう

で齒黒めもありく

一 ともかく 仁和寺河の行幸の

次幸八条院為作奇御輿之使物

造階隠云見使ア王記天慶六

年也今案南階のるよ柱と二あ

て上とあさくくくく

や云鳳輦をひんぐくく

つくだのりくくく

らんくくく 一 ともかくく

本 ともかくの骨九云あう

のくくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

くくくくくく

源氏の常衣のまこといふこと
 でつらあり 一ノふあらう
 めくともむすもく同うくぐくねあ。
 必くあれよいあらぐくぐく
 一玄の當り之けり 春鶯囀 弄笔
 一各天長 宝秀ふく云
 一^舞のりあき 髪々々の調度の中
 一海松と一あさくらつら事あり。
 一碁盤山菅山橋海松青目の石
 一^二並んて是等を比喩あよこと
 一^三つやも 一^舞つあしや 葵い
 一^四きしつあよこといり人いあふを
 一あり神のまろしといふあまら
 一ありあき海松いりいり
 一^五れいあしやいり
 一^六まやあふあきの先いんいりいり

ちんけいよりいりああいでいり
 の心との倍くあまのうりいりま
 一^七八首よたてけいけい^{カウチク}考徳天皇
 一^八不化四年二月始^{タイ}送^ク大極殿い
 八首とふいり八首とつり八首
 の本院ならあ^{ホカキ}朱雀門の内一町
 一^九あり南限^ニ冷泉院北限^ニ中御門
 一^{一〇}東^ニ東の坊城^{ホカキ}西の坊城^ニ限^ニ中車
 一^{一一}八首の東路^{ホカキ}よ立^ニい^ニび^ニた^ニる^ニ一
 一^{一二}い^ニり^ニ車^ニい^ニり^ニ路^ニの^ニま^ニく
 一^{一三}白^ク蛇^ク日^クと^クつ^クわ^クり^クあ^クの^クま^クら^クり
 一^{一四}前^ニ漢^ニ書^ニ曰^ク昔^ニ荆^ニ軻^ニ慕^ニ燕^ニ丹^ニ儀^ニ自^ニ虹
 一^{一五}貫^ニ自^ニ太子^ニ衆^ニ之^ニ一^ニ燕^ニ乃^ニ太子^ニ丹^ニが^ニ始
 一^{一六}皇^ニと^クい^クあ^クい^クと^クい^クに^ク今^ク源^ク氏
 一^{一七}と^クい^クと^クい^クら^クり^ク證^ク本^クよ^ク目^クつ^ク

とりもつりば餅ハ遊あそびのちりり
のけりりの餅と月也則ちすなはち
香舟を飾りて一いつひのあらはし
あつたてのあらはしをならせし
よまよまの いつひはあらしし

悟はつたあらしし

方等經の中よ方等經の中よを教
とるて色をいはねのつりは是は佛の
後には取着のまじりしつらび今の
まじりもまじり也化の生有空と
七の物をまじりし一の會の生有空
端には加乘は三のよも也
三の男はは威光とまじりし
心秋 いつひはあらしし 四
皓朝は仕の言ヲ翼已成とつり
いつひはあらしし 五

処詮寢屋をまじりし母屋の内とまじり
分りし中と聞きし外にはま
まじりしまじりしまじりし張障
あらしし 六

一八条戎の内が 仁明天皇の内に
本康親王とは上の父とまじりし
まじりし 七
一の早下のいづつん袖の
あらしし 八

一のあらしし 九
袋をまじりし 十
あらしし 十一
あらしし 十二
あらしし 十三
あらしし 十四
あらしし 十五
あらしし 十六
あらしし 十七
あらしし 十八
あらしし 十九
あらしし 二十

一 鹿角のまじりあつたや
 まつら 秋班犀^{シノ} 第四位の人を
 用^{ウケ}て 衣者^{ウケモノ} 烏犀^{ウシ} 諒^{リョウ} 周^{シュウ}
 一 班犀^{シノ} とは 衣^{ウケ} のまじりあつたや
 一 鹿角^{シノ} のまじりあつたや
 一 蓮子^{シノ} 数^{シノ} 益^{シノ} と 詩^{シノ} のまじり
 一 蓮子^{シノ} のまじりあつたや
 一 葉^{シノ} のまじりあつたや
 一 陵園^{シノ} 妻^{シノ} 衣^{シノ} 朝^{シノ} のまじりあつたや
 一 白^{シノ} 氏^{シノ} 文集^{シノ} 詩^{シノ} のまじりあつたや
 一 今^{シノ} 物^{シノ} 流^{シノ} のまじりあつたや

一 鹿角^{シノ} のまじりあつたや
 一 蓮子^{シノ} のまじりあつたや
 一 葉^{シノ} のまじりあつたや
 一 陵園^{シノ} 妻^{シノ} 衣^{シノ} 朝^{シノ} のまじりあつたや
 一 白^{シノ} 氏^{シノ} 文集^{シノ} 詩^{シノ} のまじりあつたや
 一 今^{シノ} 物^{シノ} 流^{シノ} のまじりあつたや

一 鹿角^{シノ} のまじりあつたや
 一 蓮子^{シノ} のまじりあつたや
 一 葉^{シノ} のまじりあつたや
 一 陵園^{シノ} 妻^{シノ} 衣^{シノ} 朝^{シノ} のまじりあつたや
 一 白^{シノ} 氏^{シノ} 文集^{シノ} 詩^{シノ} のまじりあつたや
 一 今^{シノ} 物^{シノ} 流^{シノ} のまじりあつたや
 一 鹿角^{シノ} のまじりあつたや
 一 蓮子^{シノ} のまじりあつたや
 一 葉^{シノ} のまじりあつたや
 一 陵園^{シノ} 妻^{シノ} 衣^{シノ} 朝^{シノ} のまじりあつたや
 一 白^{シノ} 氏^{シノ} 文集^{シノ} 詩^{シノ} のまじりあつたや
 一 今^{シノ} 物^{シノ} 流^{シノ} のまじりあつたや

一 じびきの守 暇者の下は蓋のつら

めらふまじきの布と用黒儿帳や

ハ本丁乃もどきありあてまのいん

らそんぐ帷ハ是もまじりあり

一 じびぐく入まの 一 じびり鳥又鳴鳥ハ

松河じびとあまう鳥若こりち

わめいひをまあうふ家敷と後成と

引別く海とてとあれりつこあひあ

一 日本記 母巻始於代至持統天皇御

和寺とま光孝天皇のゆかりとて

仁和年中ははくれとてよらん仁和

さく号をり又義平は門ハ天曆六年

三月のや家のみそ四月は仁和とて

遷れありけ物成乃朱荏院ハ兼

平は門准とてれ是と名合書ん

一 じーのこ十方 後其西方過十方

億佛と有世界名爲極楽阿弥陀經

一 じりいもあくらまのいんあま

あまらひあしやまのいんあま

ハくらの下藝乃つらこさひの袖

一 じりいもあくらまのいんあま

乃声とい息処の信よつてよあ

一 じりいもあくらまのいんあま

一 じりいもあくらまのいんあま

一 じりいもあくらまのいんあま

容顔似舅潘安仁之外甥氣調如

兄崔季珪之小妹氣調のいんあま

一 じりいもあくらまのいんあま

のまはらう女とてあゆつてあま

め見よてしつを結 *Yumetsu (Yumetsu)*
再一 *Yumetsu (Yumetsu)*
Yumetsu (Yumetsu)
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

一 *Yumetsu (Yumetsu)*
一 *Yumetsu (Yumetsu)*

いよまろりゆりゆりまよふいふ名目を
いよまろりゆりゆりまよふいふ名目を

一 ぼんもも本まもの

一 ぼそろくもり 保會品 俱世利未

のなご 一 ぼとくく 殆ど忘

一 ぼそろ 廊之 一 法界三昧普賢

大士 南無法界三昧普賢今相云

大士と同復之は界衆生普賢を同大

いよまろり 一 ぼとくく

ほろりまのま 一 ぼしゆまてか

れまろり 一 ぼりゆ 仁徳天

皇の由時好てりれゆり何ん

一 ぼんまのまろり 弄 世と改は復

と結くまろり 一 ぼしゆまてか

一 ぼしゆまてか 寛筭供奉のま

後又何復まのま 寛筭供奉のま

の如あまろり

一 ぼのまろりまろりまろり 老けはの

まろりまろりまろり 新まろりまろり

一 ぼろりまろりまろりまろり 老けはの

まろりまろりまろり じまありまろり

まろりまろりまろり 母まろりまろり

まろりまろりまろり 母まろりまろり

一 郭ろあど 一 ぼのまろりまろり

更、後雨中し色一 仏のまろりまろり

まろり九、如來や世のまろり九聖一 如

若魚不二の如と流く衆生のまろり

ひを速く 翻くまろりまろりまろり

照心まろりまろりまろりまろり 冥報

宗王まろりまろり 歳経流法取まろり

孫傳まろりまろりまろりまろりまろり

まろりまろりまろりまろりまろり

去りて〜 茶島上下異変

一 つの寺へ 賀茂八幡社 弟の村に後
て人五後三人 二十二人をり 弟
一 旅 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
それと隣に 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
迎出つてのりあり

一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

Om

一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

目録上二九四

一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟
一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

丑寅刻の右陣勤之丑刻物節

人印辭下候由之思之

一 とうとうのうらやま 虎狼

一 友ちどり 我の心ごとく入る鳥

一 ともてしむくひのひんあひのひん

一 師の又教のふまのあひのひん

一 さんさん 一 さんさん 念ふ

一 とうとうのうらやま 波風よ 弄十二

一 三歳の時遺を便りく 波期國

一 修羅琴と遠くもあえ 阿

一 まらけの物候 とうげのうらやま

一 のまらけのうらやま 行又梅

一 櫛木うらやま 琴とひんあひのひん

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

一 とうとうのうらやま 年中の節金

御歌 聖徳太子降時の子十月は
うのし 春日の甲の盾にさそとや
ま 個のあや午日へ内裏さそあそ
一りちりさそい 律ハ秋とけさ
めさあそとけつはさそいさそ干

月日しんご冬秋は属す

柳宗苑 上右のあそ舞あり今い

後より 一りんとさそく

客とさそとさそいさそいさそい

けう 行政の職とさそいさそい

ひりさそいさそいさそいさそい

目乃ち多人のさそいさそい

折さそいさそいさそい

龍頭鶏首 竜水と心さそい

い風とさそいさそいさそい

一りちりさそいさそい

次呂ハ去律ハ秋日本ハ呂律唐
律呂本ハ律呂中云律ハ陽正呂
陰助ハ秋ハ陽正呂ハ呂律と
之律とさそいさそいさそい
て 源氏物語ハ調曲をさそい
のりらあのおとく 呂律ハ律をさ
いさそいさそいさそい
本朝伶倫のおとくも 呂律とゆ
や用さそい 一りんの年 未
よさそいさそいさそい

一めさそい ぬさすく
一めさそい 龍首額突
一めさそい 後藤 藤めて道祖神
一めさそい 一めさそい

源乃乃角とひらとめい...
ゆりゆり... 行信

ゆりゆり... 盗食家

ゆりゆり... 捧物の衣のひた

ゆりゆり... 玉

ゆりゆり... 玉

ゆりゆり... 玉

ゆりゆり... 玉

ゆりゆり... 玉

隋

夜者専夜晝同章長辰

夜者専夜晝同章長辰

納履 在後涼衣

助及成人

鳥邊... 愛石

日本記 俗より... 押さ

俗より... 押さ

俗より... 押さ

て十一月毎日よ除服志修す

一 お侍しゝぬ事 桐帝の御代

の御代と云ふは信の御代なり

一 おいし中將の侍りたりつが御代と

いしりいさふし 花鳥 独直衣

人びりし 志家の御代と云ふに用

あふ今世もさ上の御代といひ

びやの御代といひらぬお家の御代

衣に二藍或花田と云ふよりて着し

源氏の宰相中將の御代と云ふは

中將の御代といふは御代と云ふ

よりてこれ二藍の御代と着用

すべし 官の御代といひ着御代の

りらぬ官の御代といひらぬ御代

ちりらぬ御代といひらぬ御代

宰相中將の御代といひらぬ御代

御代と云ふは

君の御代と云ふは非多後の御代と云ふは

ひらぬ御代といひらぬ御代

の御代 那多後の御代 二位三位の御代

中將の御代と云ふは又少将の御代

進一後復たはれは花田の御代

ときのお家の御代といひらぬ御代

氏の御代といひらぬ御代

は御代といひらぬ御代

これ二藍なれは御代といひらぬ御代

と云ふは御代といひらぬ御代

下御代の御代といひらぬ御代

多 面白堂裏 濃き後 夏二藍 穀

御代といひらぬ御代

つらと用ひらぬ御代

人の御代といひらぬ御代

と云ふは御代といひらぬ御代

と云ふは御代といひらぬ御代

と云ふは御代といひらぬ御代

くまじりくひりまて。歌中^{カク}の費
首^{カク}より。首下^{セウゲ}の事とも。後
と

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

くまじりくひりまて。歌中^{カク}の費
首^{カク}より。首下^{セウゲ}の事とも。後
と

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

一 ^{カク} 海女^{ウミメ}の心

野女の織二幅とのりしてあつた
借金をし九とひらきうけわくは
女けとゆへて云々

一に海へ渡りて主帰京の時大和路と
つて松津よ越え難波よまらさへか
つとく七日よ大和の諸所よ分治十

日よ入京し終く彼大和路の所
京に御籠りて平代一衣女々の所と
しりりれい煮くめりつるよや

一賜賜の衣いひまこに去年今宵
侍清涼秋憶詩篇独酌腸息腸
御衣今在哉捧將毎白并餘香

聖廟の作
一いそいひゆも
あひい門の源よいそ後つる夏草
うそくさる夏草いれと後りゆし
やそくあり 一にけいあ大勢

新巻未記 巨故屋 旧記多天炊屋書

一はのつづいひひて朱雀院の月目こ
つし後夏い三条院いめつづい
後りのよいひもあつて

一に海への皇の光と七夕祭よ洗
のむをを止りてととてやの光を
いそくさるくあり

一をのうまにひつてあつ身こ也
一にれいのをろくむるりれ

一をのええと人 晋玉質石室山見
童子困暮手質一物如事核舎之
不飢局味終芥柳樹尽既帰無襪

時人 一木はあま
大い極く 一木いそめし

ねの巻よあまにねと
ねあひくみり

一 杖もゆるし 杖のいしむし之等
とくやすく 一 杖のゆるし
杖車元の中御を後三位の位を
了り一ふり度内方殿にりし一停
ぬのの位一也也 驛午車之寛弘八
八月方右後原朝臣宗午車入待
寛門上東門ホニ

一 杖びきりけりしとこれおぼし
ぬしとておぼしとてしり
一 杖ひれある おぼしびれとて一
大やうりりし

一 杖びきりけりしとて 各留半
座系華臺待我爾は同行人
法照祿作五會撥 杖のいけりし
一 弄昇進よ人の遊けりし
一 杖ろし おどろし心はしりし

一 杖ろし 杖のいけりし
ト 杖ろし早下とてしり
杖のいけりしとてしり
杖のいけりしとてしり
杖のいけりしとてしり

一 杖ろし 杖のいけりし
杖のいけりしとてしり
杖のいけりしとてしり
杖のいけりしとてしり
杖のいけりしとてしり

一 杖ろし 杖のいけりし
杖のいけりしとてしり
杖のいけりしとてしり
杖のいけりしとてしり
杖のいけりしとてしり

又実父あるるをいふ事

一 なるいづれにつけて 嫗おきな 老女のいづれ

一 けりあらしは音 暮海くらうみの夏とくじ

一 まりりつり川 ぬの川よよみ

一 王人の御いづれいづれ人の書いづれ

一 といぬもいづれいづれいづれ

一 中道ナカミチの玉への通路

一 鳥の巢よ二なるいづれ

一 のとわり玉を鴨カモよよみとく仰カギを

一 一不ヒト見よたをいづれ

一 一ねばいづれいづれ 思崩オモツク

一 一たもあそくいづれ筆ヒツ此 下筆ゲヒツいづれ

一 一ひりおもひくいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一心ココロ 切灯キリトウ甚シとくいづれいづれいづれ

目録

一 一あつしとくいづれいづれいづれいづれ

一 一平ヒラ送オウ成セイよたをいづれ 先サキにたをいづれ

一 一有ア知チ失シ之シあり 一 一たをいづれいづれ

一 一解トク初ハツメはた改カヘたをいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

一 一いづれいづれいづれいづれいづれ

進食日本記 神功皇后紀北到火前
國松浦縣而進食於玉島里小河之
側但止於世俗くもまいくんていつて

ほとぢいひとらまきり

一たいや 仔細しあるゆへ

一たぞき ありろくしん

一たひきど なるゆへを日えうとく

ありろくしん

一たはら ありろくしん

一たのゆえ 一たどくげのそ

くろ道のあきなり

一たのづ 善の祈とまひん

くれもくはよしんく上臈のゆ

きどなきゆらありすあり

一たぞくべさ お中よそ生長あか

おそろくめとけんを思ふ

用字五十五

一たのいさげ 進達

一たのやとひはら 伴勢物終よ鬼

口よのひそりひはら 小松帝取仁和

三年八月武法殿のた原あり鬼食今

是則大性く 一たのこのく 日本記

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

一たのこのく 一たのこのく

とてしるすものなり

一 藤原の御所ありてついでに

一 そのおとらけりて

一 ねつりて

一 をいれいへして

一 をのりて

川又奥も川名知く

一 侍者女ども或は

一 性

一 をとまひ

一 ねがひ

一 をしれ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

しりてしるす

田代上五十六

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

わ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

一 ねがひ

垂^シま^スく^ハあつ^クさ^レた^ハあ^らま^じら^しも^云
ひり^ク明^カ記^ス云^ハあ^らま^じら^しハ^キハ^ラら^ハ
張^リと^テ用^ヒら^レる^トし^ハよ^クお^こし^テ
使^ハら^レる^ト云^フ

一^ハつら^カり^ハ哥^ノ早^トく^シ
一^ハつら^カり^ハ鹿^ノ病^ヲ 疔^ノ日^ノ之^レ世^ノ俗^ヲを

一^ハつら^カり^ハ王家^ノ子^ヲ華^ノ倫^ノ王^ノ孫^ト
て^ハ姓^ト不^レ賜^ス平^ノ人^ト云^フ

一^ハつら^カり^ハ命^ヲぬ^クら^ハり^ハあ^らま^じら^し
体^ノ見^ルも^トる^所云^フ

一^ハつら^カり^ハ知^ル者^ノ形^ヲ不^レ故^ト者^ノ跡^ヲ
す^ハ温^ノ悲^ノ端^ヲ子^ノ寒^ノ氣^ヲ併^シ入^ル鼻^ノ中^ニ染^ル
と^云ふ^ハと^云ふ^ハの^後つ^り

一^ハつら^カり^ハは^ハ浅^キ河^ノ海^ノ花^ノ
鳥^ノ委^レ略^ス 御^ノ門^ノ首^ノは^ハあ^らま^じら^し

コ^トシ^テ所^ノ王^ノノ^額よ^ク一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首

一^ハつら^カり^ハあ^らま^じら^しの^首は^ハあ^らま^じら^し
い^ハつ^りま^じら^しび^レて^ハほ^ろと^云ふ^ハあ^らま^じら^し

く^レて^ハこ^ノ心^ノを^テ 勢^ノを^テさ^レる^ハあ^らま^じら^し
く^レあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首

た^ノの^首を^テ 勢^ノを^テさ^レる^ハあ^らま^じら^し
一^ハつら^カり^ハあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首

く^レあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首
一^ハつら^カり^ハあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首

く^レあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首
一^ハつら^カり^ハあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首

く^レあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首
一^ハつら^カり^ハあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首

一^ハつら^カり^ハあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首
一^ハつら^カり^ハあ^らま^じら^しの^首を^テ一^ハ倍^シり^テ京^ノの^首

万やうきくく家よつてもゐりて織
魁云哥とくして海うつらり

一わらわ 多岐

一わらわ 皇慶平調

一わらわ 四月 天气 和旦
清緑 摺陰 合抄 撰乎 白氏文集

一わらわ 和のそと

一わらわ 和のそと

一わらわ 和のそと

一わらわ 和のそと

一わらわ 和のそと

一わらわ 和のそと

一わらわ 和のそと

一わらわ 和のそと

一わらわ 和のそと

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

一われのあつもの 義義

は後より一々のお返しとて

一ツこれれ御まて花と作てくさくさ

一ツこのころころと嫁娶まていやくし

てとの心ひり

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

目次上六十

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

一ツこのの度と根

ありなきをいれありあり

一かくらつ 源名

一かくらつま 種

一かくらつこけけごもありありありあり

うらぶさう 摺らういなくあらうり 誰

うらぶさういりりサ度いさうあらうり

一かくらつ 何記念 甚加信文集

一かくらつりもと又夜のうらむにさ

人は送りぬれとあふなりむとを

のさうちう用きとらり

一かくらつ 金叙

一かくらつりり 風情

一かくらつ 勤くくくくくくくくあり

うらぶさうと後

一かくらつひのみ 丁条院の取取上東

内院のい入也ありて 濃意は向もい

とらうらあり業花およありあ代の

ののさうり度ちあはいあ

一かくらつ 後いぬれいああは

うらぶさうあはいああは

あはいああはいああは

あはいああはいああは

あはいああはいああは

一かくらつ 類

一かくらつ 片方片度

一かくらつ 片方片度

一かくらつ 片方片度

一かくらつ 片方片度

一かくらつ 片方片度

一かくらつ 片方片度

一かくらつ 片方片度

一からして聲一かれあつた
あるさあきやあつた

一かゝるし 柵子さしいおん一海さき

一かゝるあつた ちびのあきあつた

あつたあつたしり中川のみらあ

しりあつたあつたあつたあつた

えりりとのあつた美濃みの信濃しんのうの国

のほりあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

田舎草子

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

の女乃^ハこゝろ^ハ後^ハ天^ノの^ハつ^ハり^ハい^ハふ^ハま^ハ
あり又^ハ冬^ノま^ハり^ハ卓^ノ文^ノ君^ノ白^ノ頭^ノ吟^ノと^ハま^ハ古^ハ
を^ハつ^ハり^ハて^ハあれ^ハば^ハ目^ノ子^ノ相^ノ如^ノと^ハい^ハふ^ハ
て^ハあ^ハれ^ハと^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

一^冊か^ハれ^ハる^ハま^ハお^ハと^ハし^ハま^ハい^ハふ^ハは^ハい^ハき^ハき^ハ
心^ノあり

い^ハず^ハ花^ノ茶^ノの^ハま^ハい^ハは^ハ遊^ノと^ハり^ハよ^ハて^ハ
茶^ノ茶^ノや^ハし^ハ。但^ハ天^ノ曆^ノ三^ノ年^ノ三^ノ月^ノ十^ノ日^ノ三^ノ

条^ノ後^ノ花^ノ茶^ノ陽^ノ成^ノ院^ノ裏^ノ。同^ノ月^ノ十^ノ二^ノ日^ノの^ハ裏^ノ
仁^ノ壽^ノ殿^ノ花^ノ茶^ノ各^ノ有^ノ茶^ノ茶^ノ即^ノ羹^ノ春^ノ

鶯^ノ囀^ノ又^ハ地^ノ下^ノ伶^ノ人^ノと^ハり^ハよ^ハて^ハあ^ハま^ハの^ハ
茶^ノの^ハま^ハい^ハは^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

も^ハあ^ハれ^ハば^ハあ^ハる^ハま^ハり^ハあ^ハる^ハま^ハり^ハあ^ハる^ハま^ハり^ハ
あ^ハる^ハま^ハり

ら^ハし^ハ悔^ノ仲^ノ之^ハ遠^ノ逸^ノと^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ
あ^ハる^ハま^ハり

月ノ下ノ十六

つ^ハら^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

あ^ハる^ハま^ハり^ハの^ハま^ハい^ハは^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

行^ノ被^ノ衣^ノの^ハま^ハい^ハは^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

あ^ハる^ハま^ハり^ハの^ハま^ハい^ハは^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

あ^ハる^ハま^ハり^ハの^ハま^ハい^ハは^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

あ^ハる^ハま^ハり^ハの^ハま^ハい^ハは^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

あ^ハる^ハま^ハり^ハの^ハま^ハい^ハは^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

あ^ハる^ハま^ハり^ハの^ハま^ハい^ハは^ハい^ハふ^ハま^ハり^ハ

又徳縁王中務の
親王 又徳縁王中務の
仁和五年卜定 條王例に
くもあはざりけりしと
杉花鳥委

一 かのまも 杉花鳥委
ゆる心ありあまを
どあれど 一 かのまも
からあまをせむる
かみ 嘲弄せむ

一 かのまも 楚屈原
天雅彦戸之湯津楓樹
日食本記

一 かのまも 楚屈原
度とつたれ他屈原
一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原

目次上六十八

一 かのまも

一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原

一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原

一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原

一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原

一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原
一 かのまも 楚屈原

二人の如くをとりあられに控のものを
 くらふべし官年送儀の由も三ノ里
 くらふ控度ありといふもいふもあれ
 のれとびつりも控のさあそらふ念
 いらしてほめも控大御さといふれ
 ぬあり中は正入控十人あられり
 一あつはよはげく送りの人あり
 十人といふ十列と車控の控十
 人といふりこおもむきりやといふ御
 へ。神社の御章。園白のおまゝ昔
 傳てまゝに與して。社名もあま
 とあまといふ馬ゆまて馬をい
 るのありよのはひいたま道の定人
 そとつて身。八幡臨時祭をいふ
 上の御事。祭人より。祭人の表
 儀をいふてもあま十列と具し

後つるあま一 一からのあまのり
 といふもいふべし。元徳二年八月九
 月。川堂。千束。左大臣。同日
 童太人。為隨。三年十月九日。教
 賜。左大臣。清。生。各一人。を。清。各一人。
 為。清。外。他。儀。童。子。み。今。案。つ
 いて。多。り。つ。ゆ。り。て。ま。う。さ。れ。す。そ。ご
 の。お。ま。い。は。ら。う。い。え。も。あ。れ。ど。そ
 の。お。ま。い。は。ら。う。い。え。も。あ。れ。ど。そ
 や。う。い。は。ら。う。い。え。も。あ。れ。ど。そ
 ら。や。う。い。は。ら。う。い。え。も。あ。れ。ど。そ
 くら。の。お。ま。い。は。ら。う。い。え。も。あ。れ。ど。そ
 と。い。は。ら。う。い。え。も。あ。れ。ど。そ
 駒。之。童。の。多。後。の。国。史。も。あ。れ。ど。そ
 ら。や。う。い。は。ら。う。い。え。も。あ。れ。ど。そ
 あり。い。は。ら。う。い。え。も。あ。れ。ど。そ

一 藤内後 一 かつりりるるやの
唐守 顔始射 乃自 註る 蘇
始射山 かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

目や上七

あり 一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

一 かつりりるるやの かつりりるるやの

てあり

一 舞かほしあへん 雪も

よの雪のあまり

一 雪の下ゆ 紫の具は桂つらふを

とあへん

一 かけのまやのけ

まやのまやのけのまやのけのまやのけ

のゆ襖もていあへん 陳後のことよきこと

んことよや 飯園のまやのけ

文選

一 風のちりけりすか

一 豪華賦序 落葉侯 微風 以 隕 瓦

加蓋 寡風の力の内 大屋 飯 中 飯 饗

とねい不成ともや 今あまやととも

海女のちりけりすか 今あまやととも

あへんとも不成ともあり

一 風の香の行よ 風生行 夜寝間臥

月照松時 臺上行 朗

かけていんがけりすか 今あまやととも

目次上巻十一

あり 舞のぶらと 月ひていあり

目ひのいんがけりすか 今あまやととも

神よとけりすか 今あまやととも

あり 一 かけのまやのけ

まやのまやのけのまやのけのまやのけ

らわりののいんがけりすか 今あまやととも

城畧しり 花 梅練 ぐらと 紅の

まやのわりんらとあるをえあ中び

あへんいんがけりすか 今あまやととも

しんがけりすか 今あまやととも

一 かけのまやのけ 一 かけのまやのけ

まやのまやのけのまやのけのまやのけ

本よのかりん唐の粉のまやのけ 花今

葉 白地粉と 東京粉とまやのけ

一 かけのまやのけ 今あまやととも

まやのまやのけのまやのけのまやのけ

紫の^ハ博^ハ地^ハも^ハあ^ハる

一 神^ハ在^ハ丹^ハの^ハ井^ハあり^ハの^ハ俗^ハに^ハさ^ハる

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 康^ハ保^ハ三^ハ年^ハ十^ハ月^ハ廿^ハ三

日^ハ村^ハ上^ハ天^ハ皇^ハ行^ハ幸^ハ朱^ハ菴^ハ院^ハに^ハ例^ハせ^ハり

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 漢^ハ武^ハ帝^ハ栢^ハ梁^ハ殿^ハに^ハ例^ハせ^ハり

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 東^ハ文^ハの^ハ丸^ハに^ハ例^ハせ^ハり

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 井^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 河^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

目ヤ入上七十四

の^ハり^ハあ^ハる^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 一^ハの^ハ善^ハあり^ハ 皇^ハ恩^ハは^ハと

一 風のまじりか 地獄の入り口と傳へ
 ざれと云く 一 加つと 不羅く
 一 かくさく 学坐 一 かくし 大やけの
 詠の勳者 一 かくし げよる
 一 もふさあがつべし 文選 采玉風
 賦曰 麗名伐木 胡親林莽

